

イ 郷・里・郡・国・県・市編

○郷

・律令時代地方行政区画の最下級単位で、霊龜元年（715）「里」を改め「郷」といった。律令制によれば、1里すなわち1郷は50戸をもって構成され、長1人（里長、のち郷長）を置き、租税の徴収など主な職務とし管理させました。自然発生的な集落や村とは全く異なり、純然たる行政的なものとして設置されました。

○国郡制

・大化以後定められましたが、国境は、天武12年（684）にほぼ決定され、令制では58国3島があり、天長元年（824）に改廃を経たのち、66国2島が確定しました。国は大・上・中・下の4種に、郡は大・上・中・下・小の5種に区分されました。、全国で郡は約600、郷は約4000ありました。

○国・郡・里

・令制の地方行政単位は国・郡・里の3階があり、国司・郡司・里長がそれぞれ置かれました。国司は中央貴族の中から任命され、地方に下らせ、郡司は、国造（くにのみやつこ）など地方豪族を当て、里長は里の中のすぐれた者を選び任命しました。50戸をもって1里としましたが、霊龜元年（715）里を郷と改め、郷の下に3里前後がありました。なお、5戸をもって保とし、保長を置きました。

○律令制度大宝元年（701）

・大化改新（645年）により、氏族首長私有の土地や人民も収公（没収）し、公地公民として統治するのに郡県の制をしきました。中央に強力な政治が確立され、最高支配者「天皇」の任命した宮人が、国司として各国に配され、地方官は土地と人民を領有せず、官職に任期があり世襲しませんでした。班田収授制があり、国分田を配して、租庸調（そようちょう）を収め国力は急激に向上され、文化が興隆しました。

○郡区町村編成法

・明治11年（1878）7月に制定しました。大小区の重複を除き、旧町村を復活しその共同体としての、また行政区としての性格を確認したもので、大小区を廃し、地方を画して府県の下に、郡区町村としその名称はすべて旧に復し、明治22年（1889）まで続けました。現市域の字相当区域の村は、大住郡114村、洵綾郡20村の内にあります。

○廃藩置県

・慶應3年（1867）徳川幕府が崩壊（大政奉還）し、徳川領は官収され、全

日本260余藩は、暫定措置として藩名を県名に変えました。小田原藩を小田原県、荻野山中藩を荻野山中県、烏山藩を烏山県といった具合です。明治2年（1869）6月に、諸藩は版籍を還し、明治4年（1871）7月に藩を廃し県を置きました。

○郡合併

・明治22年（1889）の市制、町村制施行後は短時日の間に推進した町村合併の整理期ともいえる期間でした。明治29年（1896）4月、大住郡・淘綾郡を合併し「中郡」と改称しました。

○市制・町村制

・明治21年（1888）4月、市制・町村制が公布され、翌年4月1日に施行されました。その前提として全国的町村合併が断行され、従来の戸長役場区域を解消し、明治22年（1889）3月30日現在で、県は1市26町294村に統合されました。

○府県制

・明治後の地方自治制で、明治元年（1868）の府県藩体制の中で旧幕領は神奈川府となり、ついで神奈川県に改称しました。六浦、荻野山中、小田原等旧藩は従来どおりで、旗本采地（さいち：領地・知行地）は没収され韮山県となり、ついで神奈川県に移管されました。明治4年（1871）廃藩置県により六浦藩は六浦県、荻野山中藩は荻野中山県、小田原藩は小田原県に変わり、その後荻野山中県・小田原県・韮山県は足柄県となりました。明治9年（1876）に足柄県・六浦県は廃され、神奈川県に合併されました。したがって、旧相模は全域が神奈川県に所属しました。

○相模の国

・古くは相模としたが、のち相模と書くようになりました。旧国名で今の神奈川県の一部が「さかむ」がのち「さがみ」となりました。相模川流域の佐加牟（さかむ）、酒匂川流域の師長（しなが）、鎌倉周辺の鎌倉別（かまくらわけ）が大化改新により合併し、相模国となりました。5世紀以来、この地は朝廷と関係が深く、屯倉（みくら）、子代（こしろ）、名代（なしろ）が多く設定され、国造（くにのみやつこ）たちは、朝廷に対し従順でした。

○相模国八郡

・天平7年（735）11月10日相模国封戸交易帳に全部で8郡その名が見えます。足上（あしのかみ）・足下（あしのした）・余綾（よろぎ）・大住（おおすみ）。高座（たかくら）・鎌倉（かまくら）・御浦（みうら）の7郡あり、1郡は断簡文書で確かめえないが、延喜式にはこのほか愛甲（あいかわ）があって8郡となります。拾芥抄にも8郡あります。足上（あしからのかみ）・足下（あ

しからのしも）・余綾（よるぎ）・愛甲（あいこう）と読みに異同があります。

郡名考は足柄上（あしがらかみ）・足柄下（あしがらしも）・淘綾（ゆるぎ）・高座（こうざ）・三浦（みうら）とあり、文字読みに差違があります。また、愛甲から津久井県（つくいあがた）が分かれ、のちに淘綾と大住が合して中郡となりました。

○中 郡

・小田原北条氏の領国は広範囲にわたったが、相模のうち、愛甲郡・大住郡（おすみぐん）・淘綾郡（ゆるぎぐん）3郡の地域を中郡（なかごおり）と言いました。各郡に郡代が置かれ、中郡は小田原本城の支配下にありました。本城の小田原城に属する武士団を小田原衆と言いました。

○湘南の語源

・湘南という地名は、風景の良い中国湖南省江南部にちなんで名付けられたもので「湘江」の南部という意味で「湘南」といわれるようになりました。いつごろから使われるようになったかは明らかではありませんが、大磯鳴立庵の碑に「看盡湘南純地・・・」と書かれています。年代は寛文4年（1664）であるので、既に江戸時代中期に使われていたことが分かります。一般的には明治以降といわれています。

○平塚地名のおこり

・伝説で、平塚本宿の要法寺の墓地内に「平塚の塚」があります。この塚の主は同寺の古記録によれば、桓武天皇三代の孫高見王の子砂子とあります。風土記には政子と記されていますが、この女性に関しては正史に載っていません。

この塚の上が平らであったので「平塚」という地名が起ったと伝えられていますが、昔は塚の上に女体天神社があったといい、また金掘塚とも呼ばれていたようです。政子と同胞の高望王は平氏の祖です。

○平塚市

・昭和7年（1932）4月1日に市制が施行され、平塚市が誕生しました。横浜市・横須賀市・川崎市に次ぐ第4番目の「市」です。

昭和29年（1954）7月15日に旭村と合併しました。

昭和31年（1956）9月30日に大野町（豊田村も含む）・神田村・城島村・岡崎村・土沢村・金田村と合併しました。昭和32年（1957）10月1日に金目村（真田も含む）と合併しました。現在の市域は67.88km²です。昭和49年（1974）の世帯数は49961、人口は182663人で、平成9年（1997）4月1日現在の世帯数は88877、人口は253558人（男129289人・女124269人）です。

○土沢の大字名

・土屋は岩屋の意味で、字土屋窪にその起源の古墳があります。これから発展した地名と言われています。また、惣領分・庶子分・寺分・五分一はみな豪族土屋氏の縁の地名です。吉沢は往昔は橘沢の文字も見え森林地帯の木沢との説もあります。吉沢の上下の唱えは永正のころ（460年前）といわれています。土沢は明治22年（1889）町村合併で土屋・吉沢の文字を一字ずつとった合成地名といわれています。

○土沢村

・市内の旧村名で、明治22年（1889）市町村制施行により、旧土屋村と吉沢村を合併し、各村の一字を結合して土沢村としました。市域西南の丘陵地帯で、昭和31年（1956）9月30日平塚市に合併しました。土沢地区は11.87km²、合併時の戸数は605戸、人口は3971人で、平成9年（1997）現在の世帯数は1298、人口は5234人です。

○土屋村

・3. 土屋と土屋氏（1）土屋のあゆみで説明します。

平成9年（1997）4月1日現在の世帯数は800戸、人口は3404人（男1776人・女1628人）です。

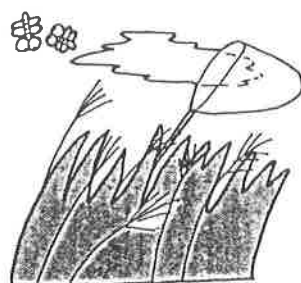
○五分一

・小田原衆所領役帳に「中郡土屋村五分一」と見えていて、もとは大住郡土屋村に属していましたが、現在は足柄上郡中井町五分一となっています。小田原北条時代か、あるいはそれ以前に、二宮八民の森林地帯であったことがわかります。

土沢・土屋・吉沢の戸数および人口

*市史編さん室民俗調査報告書・市統計資料による

年 代	土沢 戸数	人口	男・女	土屋 戸数	人口	男・女	吉沢 戸数	人口
天保 12 (1841)				189				
明治 初	明治30	445戸	3353人	260				
大正 3	449	3623	1841・1782					
7	488	3351	1688・1663					
9	505							
10	485							
12	531	3310	1667・1643					
昭和 元	503	3360	1679・1681					
4	488	3330	1698・1632					
6	499	3108	1774・1334					
9	499	3382	1882・1500					



年 代	土沢 戸数	人口	男・女	土屋 戸数	人口	男・女	吉沢 戸数	人口
昭和 1 0	503	3380	1698・1682					
1 1	505	3385	1700・1685					
1 2	505	3360	1670・1690					
1 3	505	3345	1650・1695					
1 4	505	3330	1630・1700					
1 5	516	3368	1688・1680					
2 2	651							
2 3	638	4162	2076・2086					
2 5	618	4083	2053・2030					
3 0	606	3978	2034・1943					
3 1	605	3971		323	1877			
3 2	603	3961	2037・1924					
3 3	607	3912	2011・1901					
3 4	604	3883	1987・1896					
3 5	598	3878	1988・1890	356	2158	1098・1060		
3 6	612	3798	1930・1868					
3 7	610	3781	1930・1851					
3 8	619	3807	1946・1861					
3 9	618	3782	1929・1853					
4 0	609	3767	1927・1840					
4 1	680	3797	1931・1866					
4 2	708	3857	1961・1896					
4 3	719	3881	1974・1907					
4 4	762	4018	2047・1971					
4 5	917	4402	2255・2147	552	2587	1363・1224	365	1815
5 0	1150	4955	2509・2446	720	2936	1506・1430	430	2017
5 1				671	3228	1655・1573		
5 4				594				
5 5	1142	5257	2702・2555	682	3260	1731・1529	460	1997
6 0	1155	5295	2706・2589	681	3289	1738・1551	474	2006
平成 2	1281	5563	2884・2679	779	3543	1878・1665	502	2020
7	1312	5359	2746・2613	803	3434	1776・1658	509	1925
8	1270	5246	2692・2554	774	3382	1762・1620	496	1864
9	1298	5234	2682・2552	800	3404	1776・1628	498	1830
1 0	1311	5200	2670・1614	805	3377	1763・1614	506	1823